

高崎高等学校（全日制）学校評価一覧表②（平成29年度版）

（様式2）

羅 針 盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
I 職員一体となって、地域の期待に応えられる特色ある学校づくりを進める。	1 本校の教育課題を全職員で共有し、一丸となって重点目標の達成に努める。	① 「SSH事業」を始めとする本校の特色を理解している保護者・生徒が80%以上である。 ② 全ての職員が重点目標を踏まえた自己目標を設定し、目標達成を意識した実践に取り組んでいる。 ③ 自分の学校が好きだと感じている生徒の割合が、90%以上である。	A B A	A A B	A A B	「SSH事業」などを本校の特色として理解している生徒の割合は、昨年82%であったが、今年度のアンケートでは、89%(第1回)・86%(第2回)と、増加した。保護者が理解している割合も、82%から93%へ高まった。目標を明確にしたとともに、SSH事業が定着してきたためであると考えられる。職員が設定した自己目標は学校の重点目標等と関連したもので、その達成率も良好であった。		SSH事業の定着・改善を進めるとともに、1年間を通して生徒の意識を高く保てるよう、取組内容を工夫したい。生徒はよく取り組んでいるので、取組のねらいをしっかりと意識させ、興味関心や意欲をさらに喚起させたい。学校全体や分掌の目標等に基づいた自己目標の設定について理解を深め、目標管理を実践したい。
	2 保護者・同窓会・地域と連携し、開かれた学校づくりを進める。	④ PTA総会の参加率が60%以上、学年PTA（各学年2回実施）の参加率が90%以上である。 ⑤ Webページやメール連絡網から、学校からの必要な情報が十分に伝わっていると感じている保護者が90%以上である。	B A	B A	B A	学年PTAの参加率は第1回が78%であり、第2回が81%であった。昨年度の参加率が77%であり、僅かではあるが参加率が向上している。Webページやメール連絡網から、学校からの必要な情報が十分に伝わっている。	PTA総会は、平日に仕事を休む価値があるかどうか考えて、足が遠のいてしまう場合もある。60%は高い方ではないか。PTA総会の目的の明確化が必要であると思われる。	教務・進路・生徒指導などに関連した伝えるべき情報を的確に伝え、出席した保護者の満足度の高いものにするともに、保護者の声やニーズを捉えて、迅速に反映させていく。また、正確な情報を、適切に発信し続ける。
	3 職員の服務規律の確保、特に情報管理を徹底する。	⑥ 職員の服務規律違反が「0」である。 ⑦ 情報管理に関する事故が「0」である。	B A	B A	B A	服務規律についてはことあるごとに呼びかけているが、徹底していない部分もある。 情報管理に関する事故は無く、情報モラルの意識が定着している。		引き続き、服務規律の遵守、情報モラルの意識の維持に取り組む。
II 質が高く、内容が濃い「力のつく授業」を展開する。	4 適切な授業時間を確保する。	⑧ 臨時時間割等、授業時間確保に学校として努力していると感じている職員が90%以上である。	A	A	A	複数の学年でSSH活動が行われて時間割の作成や管理にかかわる労力は増大したが、授業確保の目標は達成できた。		新入生が7クラスになる影響を想定して、1年を見通して授業確保へ取り組む。
	5 教員個々及び集団としての教科指導力の向上を図り、授業改善を推進する。	⑨ 授業改善のための研究授業や研修会を年2回以上実施する。 ⑩ 授業アンケートが授業力向上に役立っていると感じている職員・生徒が80%以上である。	A B	A A	A A	年間を通して授業改善へ取り組んだ。また他校の職員による本校授業の参観も数多く実施され、本校職員の教科指導力向上にも役立った。		SSH活動の趣旨をふまえ、可能な部分ではリンクすることで、従来から本校で行ってきた授業改善の取り組みをさらに進める。
	6 成績処理・書類作成等の効率化を図る。	⑪ 定期考査・学期末・学年末の成績処理が効率よくできていると感じている職員が80%以上である。	A	A	A	職員アンケートの数値目標を達成し、業務の見直しを進めることができた。		新入生の7クラス化、SSH活動の3学年化があり、一層組織的かつ効率的に業務を進めていく必要がある。
III 3F精神に根ざす、活力ある高高生を育成し、活気ある学校づくりを進める。	7 生活規律を確立させ、規範意識の醸成を図る。	⑫ 挨拶を励行できていると感じている職員・生徒が90%以上である。 ⑬ 遅刻者が1日平均6人以下である。	B A	B A	B A	毎朝校門で、挨拶やマナーの指導をしているが、生徒は良好と評価しつつも職員の評価は下がっている。この意識のズレを修正したい。	挨拶はよくできているように感じ、そのような町の声も聞く。	全職員を巻き込んで挨拶運動をすることにより、より元気な挨拶ができるようにしたい。また、今後も遅刻者の出ないよう校門指導をしながら、声かけを継続していきたい。
	8 交通安全指導の徹底を図る。	⑭ 雨天時に雨合羽を着用していると認識している生徒が100%である。 ⑮ 常に交通ルールを遵守していると認識している生徒が90%以上である。	A A	A A	A A	毎朝校門にて交通マナーの指導をしているので良くなってきている。さらに通学路においても街頭指導を徹底させ、指導していきたい。	交通マナーについては、見ていて危険を感じる場面がある。	昨年より苦情の件数も減り、評価は良好であった。しかしマナーに関する苦情や自転車による事故も以前複数見られている。今後も、交通安全指導の徹底を図り、安全教育を推進していきたい。
	9 問題を抱えている生徒を早期に把握し、適切に指導する。	⑯ 特別な理由なく休んだ生徒は、必ず担任・学年が連絡・状況確認をする。 ⑰ 生徒自らが自身の課題を解決できるように必要な支援を積極的に行う。 ⑱ いじめの発生防止に努め、いじめの解消率が100%である。	A A A	A A A	A A A	毎週生徒部・教育相談部の会議を持ち学年からの情報収集と共有化を図った。それを基にスクールカウンセラーとチームを組み早期に指導した結果、良好に進んでいる。		多様な生徒が出てきている中、慎重に対応しなければならぬケースが出てきている。引き続き未然防止、早期発見、早期対応を図るために、組織的な対応の徹底に努めていきたい。また生徒状況の共有化を図るために、各学年会で出た内容を1つにまとめて共有できるようにしていく。
	10 生徒会活動を活性化し、部活動や各種行事の充実を図る。	⑲ 生徒会行事が充実していると感じている生徒が80%以上である。 ⑳ 部活動が充実していると感じている生徒が80%以上である。	B A	B A	B A	おおむね良好であった。来年度は定期戦がホーム開催なので、3連勝を達成させたい。また翠巒祭もマンネリ化しないよう充実した内容にしていきたい。	全国的に部活動の加入率が低下している中でも、高崎高校の伝統である文武両道を発展させるために、新入生の啓蒙等の対策を行ってみたい。	生徒が主体的に参画でき充実感を味わえる行事となるよう。安全面の配慮も含めて、実行委員等と意見交換を綿密に行いながら進めていきたい。特に翠巒祭では文化部展示・クラス展示に早目に取り組みさせ、質の高いものにしていきたい。

高崎高等学校(全日制) 学校評価一覧表② (平成29年度版)

(様式2)

羅 針 盤			達成度			改善状況のまとめ	学校関係者評価	次年度の課題
評価対象	評価項目	具体的数値項目	①	②	総合			
IV 3年間を見通したキャリア教育を推進し、生徒の進路目標を実現する。	11 生徒一人ひとりの進路目標実現を強力に支援し、進学実績の向上を図る。	㉒ 国公立大学の合格者が180名以上である。 ㉓ 生徒対象の各種進路講演会、志望別の進路イベントや、学校が提供する進路関係資料に80%以上の生徒が満足している。	／ A	／ A	／ A	3年間を見通した教科指導と、目標の明確化、生徒との信頼関係の構築に努めている。生徒の現状を考慮し、個に適した細かい指導を積極的に取り入れている。	入学時より正確な学力分析を行うと共に、3年間をかけて育て上げる事を念頭にした指導計画の作成と、教材の精選を行う。今までの本校の教育により、学力の3要素が伸ばせることの検証を行う。	
	12 生徒の潜在能力を引き出し、学力を最大限に向上させる。	㉔ 授業の満足度が80%以上である。 ㉕ 補習・学習合宿に参加した生徒の80%以上が満足している。 ㉖ 平日の家庭学習時間の平均が3年は3時間以上、1・2年は2時間以上である。	A A B	A A B	A A B	職員の自意識は高く、より良い授業を行うために、授業改善に努めている。生徒の現状・ニーズを考慮し、レベル別授業・補習・課題を改善し、実施した。二者面談等を通じて信頼関係の構築と志の育成など細かい指導を行った。	授業を通して信頼される教師を育てる。 生徒の現状把握をより正確にする。 志を育成し、向上心を持ち自ら学ぼうとする生徒の育成に努める。	
	13 SSH、CSS関係諸行事の効果的な運営を援助し、生徒のキャリア形成力を養う。	㉗ SSH課題研究論文に真剣に取り組んだと自己評価する生徒が80%以上である。 ㉘ 1学年について、科学リテラシー講座・研修が自己の進路選択に役立った考える生徒が80%以上である。 ㉙ 2学年について、企業研究所訪問が自己の進路選択に役立った考える生徒が80%以上である。	A B B	A A A	A A A	指定2年目となり、職員のSSHへの理解も時間経過と共に向上している。1学年の課題研究は職員全体で取り組む体制になり、生徒の取組もより主体的で内容の深いものとなってきた。2学年の課題研究はより専門的になった中で、担当者同士では協議を重ねることができ、生徒も趣旨を組んでよく取り組んでいる。	指導のノウハウの継承と、ルーブリックを用いた評価規準の理解の統一を行う。2年生の課題研究は指導のシステムを構築し、より効率的に専門的な課題研究に移行できるようにする。また、SSH事業の展開においては他教科科目とも連携しながら進めていく。	
V 生徒の読書習慣を育成し、図書館利用の活性化を図る。	14 SSH活動や学年・教科と連携し、生徒の読書習慣の育成を図る。	㉚ 年間貸出数が2,500冊以上である。 ㉛ 県感想文コンクールに入賞者が出る。	B B	B A	B A	1月10日現在で貸出数は1,814冊で目標達成は厳しい状況である。SSH部担当協力のもと、論文作成用に参考図書を購入したが、貸出状況は思わしくない。他図書館などから情報を得て、読書習慣が育成できるよう努めたい。また読書感想文・小説コンクールで入賞者がでたのは喜ばしいことである。	読書より勉強になりがちな状況についてどのような対策をたてていくか。個人差もあるが、うまく指導する必要がある。職員が読んだ本を紹介するなどの方法も効果があるのではないかな。	貸出数にのみこだわらず、ネット検索との違いを理解させ、図書館の魅力を生徒自身が気付き、幅広い読書活動を推進したい。SSH、感想文・小説コンクールなど、知識を得るだけでなく、創造の場としての図書館利用の促進を図る。
	15 図書委員会の活動を充実させ、生徒の図書館利用を促進する。	㉜ 全体の30%以上が、学習室としての利用も含め、月1回以上図書館を利用する。 ㉝ 生徒の年間読書数の平均が2.5冊以上である。 ㉞ 図書委員会が毎週開かれる。	B B A	A B A	B B A	図書館利用者数は少なくはないが、特定の利用者に偏りがちである。16時50分閉館と言うこともあり、学習室として利用するものも少ない。現在平均で生徒2冊程度読んでいる状況だが、個人差があるので、読書を全くしない生徒への啓蒙を続ける。委員会は総務を中心に非常に良く働いてくれている。	年間読書数がゼロという生徒が相当数いるので、まずは授業と連携を図り、読書の有用性を説きたい。図書館主催行事の全面的な見直し及び新規行事の立ち上げなど、まだまだ改善すべき点は多々ある。部活動や行事などで委員会を開きづらい状況ではあるが、図書委員会から読書推進を促せるよう色々なことに挑戦していきたい。	
VI 健康と安全への理解を深め、学習環境と教育設備の整備に努める。	16 自主的・積極的に心身を鍛え、自らの健康を適切に管理できる資質・能力を養う。	㉟ 「保健だより」を含む健康関連情報の発信を毎月定期的に行う。 ㊱ 「受診のすすめ」に対する受診率が70%以上である。	A B	B A	A B	健康関連情報を必要に応じて発信でき、自主的な健康づくりに寄与することができた。「受診のすすめ」に対する受診率の向上のために、家庭への呼びかけ等を根気強く行う必要がある。	健康に対する意識や受診率の向上を目指し、各家庭に向けての発信を積極的に行い、引き続き自らの健康を適切に管理できる生徒の育成に努めたい。	
	17 衛生的で快適な学習環境を整備し、落ち着いた集団生活を維持できるようにする。	㊲ 校内事故の発生を「0」にする。 ㊳ 安全で衛生的な学習環境が整えられていると感じている生徒が80%以上である。	A B	A B	A B	今年度も校内事故は発生せず、概ね安全な学習環境は確保されているが、学校全体を様々な角度から点検し、より安全で衛生的な環境作りを進め、併せて生徒の学習環境に対する意識の向上を図りたい。	今年度は昨年度に引き続き、保健委員会を中心に教室等の学習環境が身体に与える影響について予防の観点から調査を行い、改善に取り組んだ。一定の成果が得られたが、一般生徒の学習環境に対する意識は昨年度に比べ上がっているとは言えず、次年度も継続して実践していきたい。	
	18 環境意識を高め、校内美化を推進する。	㊴ ゴミの分別と資源の回収を常に意識し、毎日の清掃活動・リサイクル活動に主体的に取り組めたと自己評価している生徒が90%以上である。	A	A	A	生徒会役員が中心となり、90%の生徒がリサイクルによく取り組んでいる。生徒の意識も向上しつつあるが、まだ不十分なところもみられた。	今年度の活動を継続し、分別の徹底とリサイクルの推進を目標に、広報活動や具体的な提案を行いたい。	
	19 火災や災害等の緊急時における生徒の安全を確保する。	㊵ 災害に対して危機意識を持ち、防火訓練では迅速に行動できたと自己評価している生徒が90%以上である。	A	A	A	地震を想定した第1回、火災を想定した第2回の避難訓練における生徒の行動は概ね良好で、日頃からの防災意識も昨年度よりやや向上した。	消防署の指導などを参考に、訓練や指導方法を工夫し、防災に対する意識を常に持ち続けるよう、定期的な広報活動なども考えたい。	
20 エコD o ! を積極的に推進する。	㊶ 節電を実行できたと評価している職員・生徒が90%以上である。	B	B	B	節電について、職員の意識は高いが、生徒の取り組みは73%で意識はあまり高くなく、昨年度と比較しても向上していない。	リサイクルや節電の状況について、具体的な数字を示し学校全体として、意識の高揚につなげたい。		